

グラビア	地域を支える人 立花順平さん・鳥取県境港市	1
発掘!地域の希望のタネ	〈印鑑〉山梨県市川三郷町	4
給食のじかん	和食給食推進のために・東京都渋谷区	西野 暁 6
書評	ジェラルド・A・エプシュタイン著『MMTは何が間違いなのか?』菅原敏夫	8
焦点	「大阪都構想」を巡る住民投票が示したもの	幸田 泉 10

特集

コロナ禍のもとでの 国・自治体の予算編成

解説	財政規律の「たが」が外れた過去最大の予算 ——三年連続の一〇〇兆円超予算	財政問題研究会	16
解説	二〇二一年度地方財政計画の概要とポイント	飛田博史	26
インタビュー	「オール江戸川」でコロナ禍を支える ——緊急時の自治体運営と二〇二一年度予算編成	斉藤 猛	41
	ポストコロナ時代の過疎対策と財政措置	沼尾波子	48
	コロナ禍のもと、地域医療構想はどう進むか	三原 岳	55
各県自治研活動レポート	山形県内における自治研活動の取り組み 山形県本部	齋藤富士雄	62
連載	『月刊自治研』を読む 連載をふりかえって (前編)	篠田 徹	64
	自治研センターの機関誌案内		71
	次号予告・編集部から		72



『MMTは何が間違いなのか?』
—進歩主義的なマクロ経済政策の可能性—
東洋経済新報社 二八〇〇円十税
ジェラルド・A・エプシュタイン 著
徳永潤二／内藤敦之／小倉将志郎訳



来年度予算・コロナ
一カ月以上も遅れて始まった国の予算編成は昨年十二月二日、何食わぬ顔で政府予算案・地財対策が発表された。例年通りのスケジュール。本誌も二月号で財政・地財特集を組むことができた。スケジュールは元に戻ったが、内容は

異例。税収五七・四兆円、新規国債四三・五兆円、コロナ対策予備費五兆円。あとはじっくり本誌の特集をご覧になっていたくとして、ここでは来年度予算の影の主役について読んでいこう。

影の主役 MMTとBI

MMT (現代金融貨幣理論) 派は主権通貨(ドル、元、ユーロなど。円?) 発行国はどんなに借金をしても気にすることはないと主張する。ベーシックインカム(BI)とは国民全員に無差別に現金給付をする。

そんなバカな、と思ってきたが、こんなに国債が溜まってしまったら、日本も大丈夫と言ってもらえないと心配だ。MMTにすがりつきたい。

菅政権でもブレインの竹中平蔵氏が月七万円を国民全員に配るべし(BI)と主張して、急に現実のものとなった。

『MMTは何が?』は、MMTの批判を主眼とする本ではない。主流派経済

学の「緊縮財政」を批判し、財政均衡のために必要な支出を削る政府を批判する。MMTと同じ目標を共有した上で新しい進歩主義的な政策を探るのが目的だ。MMTの誤りと新しい政策論の提案の両方を聞くことができる。

MMTの誤りは、途上国の存在、金融の不安定性、財政制度のリアルへの認識不足に基づく。おりしもコロナ禍、本書日本語版の前書きに、現下の金融情勢の不安定化についての論考が間に合った。ミステリ

BIについては、議論が出尽くしたか、竹中氏の提案で鼻白んだか、書店の棚には新しい本が見当たらなくなった。例外は『ベーシックインカム』(井上真偽、集英社)。小説、それもミステリだ。ネタバレにならないので、内容も「犯人」もお教えできないが、小説の前半はわかりやすいBIの議論。

評者 菅原敏夫 本誌編集委員